

「自律」「共生」 ～学力向上 感動の創造 共有・一体感～

南部中学校だより

2023・6・29

第4号



鮮やかに咲き誇る紫陽花！

生徒たちの「やりたいこと」・「できること」・「挑戦したいこと」
～「部活動全員加入」をやめて3ヶ月・・・～

南部中学校長 黒見隆久

6月26日付けの日本海新聞（ひろば「私の視点」）に、『部活、やめませんか？』の記事が掲載されていました。

南部町の2つの中学校では、今年から部活動への生徒の全員加入をやめました。部活動の地域移行（※私は個人的のこの言い方に多少、違和感を憶え始めていますが……）、生徒数の減少、スポーツ・文化活動の多様化、教職員の働き方改革など時代の変化の中で、長い歴史を持つ「学校の部活動」も、今までのように学校だけで担えるものではなくなってきている現状があります。まさに「学校外活動」としての新しい展開を考えていかなければ、今後立ちゆかなくなってしまう。ただ、そこに「生徒・子ども」の視点や思い・願いが第一義に考えられなければならないことは言うまでもありません。

その日（26日）には、放課後に「西部地区総体報告会」が行われ、キャプテンが試合結果とともに、頑張ってきたこと、後輩へのエール、「応援ありがとうございました」と全校に報告と感謝を述べました。これを最後に部活動を「引退」をする3年生もいます。さらなる上位大会をめざして頑張る生徒もいます。既に新チーム（1，2年生）で始動している部活動もあります。

今年度は、南部中学校で約90%の生徒が部活動をしています。その他にも、学外のクラブチームに属して頑張っている生徒（※大きな大会で何度も優勝して、今秋、日本代表として世界大会に出場する生徒もいます！すごい！）や、自分がしたいと思うことを、「部活動」にとらわれることなく頑張っている生徒もいます。

学校の部活動は今、大きな転換期を迎えています。それは、「学校や大人から言われた（準備された）ものをする。」ことから「自分のやりたいこと、できること、挑戦したいことを、自分で選んで決める。」ということへ意識と行動を変えていかなければならないのです。部活動だけでなく、これからの学校生活、社会生活では、一人ひとりの「自主」、「自立（自律）」、「責任」が強く求められる世の中になるということだと思えます。

「挑戦する」ということは、どんなことであっても「楽しい」はずです。何か楽しく、熱中できるものを、大人も子どもも持っていたいものですね。

栄光の記録

【西部地区夏季総体】(6/1, 2, 3, 15)

- 男子バスケットボール
準々決勝敗退 ⇒ 県総体出場決定戦惜敗
- 女子バスケットボール
準々決勝敗退 ⇒ 県総体出場決定戦惜敗
- 柔道 女子個人 富永彩絢 2位 ⇒ **県総体出場**
- 男子卓球
団体戦 予選リーグ敗退 個人戦 3回戦敗退

【サマーブラスコンサート】6/5

演奏曲目 「Shake it off」
「SING, SING, SING」

【第37回鳥取県中学校 女子ソフトボール選手権大会】6/11

南部・法勝寺合同チーム **優勝**



- ソフトボール リーグ戦 **全勝優勝** ⇒ **県総体出場**
- バレーボール 予選リーグ敗退
- 水泳 男子 200m個人メドレー 岡崎良佑 **1位**
男子 100m平泳ぎ 岡崎良佑 **2位**
⇒ **県総体出場**
- 剣道 男子個人戦 2回戦敗退

【第4回オープントーナメント

西日本空手道選手権大会】6/25

中学2年生男子軽量級の部 岡村泰雅 **優勝**

【第40回全日本少年軟式野球大会

ENEOS トーナメント中国地区予選会】6/24

南部・法勝寺・岸本合同チーム 1回戦惜敗



南部中学校
ホームページ
「南中 NOW!」



「地域とつながる学校へ」～しごとコンビニ～

南部中は、短時間ワークシェアリング事業「しごとコンビニ」を活用しています。

活動の様子が、6月23日(金)の日本海新聞や日本海テレビで「短時間ワークシェア 順調」として紹介されました。給食コンテナ運搬業務や校内消毒はこれまで手の空いた教職員で毎日行っていましたが、教員の働き方改革が叫ばれる今、教員でなくてもできる仕事は外注しようとする利用を決めました。教職員の負担が軽減し、むしろ教員がやるより確実かつ丁寧にやってもらえているので、とても助かっています。

今では、学校になくてはならないものになっています。また、地域の方々に学校の様子を知っていただくよい機会になっていると共に、「こんにちは!」「ご苦労様です!」と生徒が声をかけたり、生徒と一緒にコンテナを運ぶ光景が、「地域と学校がつながる」、小さくても確かな取り組みになっていると感じています。



【給食コンテナ運搬の様子】



【消毒作業の様子】



【新聞社の取材を受けられた時の様子】



【生徒と一緒に】

生徒と一緒にコンテナを運ぶ光景が、「地域と学校がつながる」、小さくても確かな取り組みになっていると感じています。